



井山三希子
陶展

2023.12/23_{sat} — 12/30_{sat}

F/style Niigata

11:00-17:00 会期中(8日間)無休

作家在廊日:12/23(土)

エフスタイル 1Fショールーム

新潟県新潟市中央区 愛宕 1-7-6

新潟バイパス/女池インターより車で3分
バス停「女池愛宕」下車徒歩1分

20代後半でやきものやとして独立して30年近く、友人の同業者からは「ヘタウマ」と褒められているのか馬鹿にされているのか… 技術的な成長がないまま、よくここまでこの仕事で食べて来たと我ながら感心すると同時に、こんな使いづらい器を買い求め使ってくださっている方、またそれを紹介して下さってきたお店の方には感謝しかない。そして、還暦に手が届いている私は今まで以上に自分に問正し、これからの時間をどう使うのか?これからは気になる方と仕事をしたい… 17年前に一度だけエフスタイルのお二人と一緒に展示をさせて頂いた時、私はお二人の仕事をきちんと理解しないまま展示を終えていた。今回は改めてお二人の空間での展示に、重信初江さんの料理会、そして Kit 榎木さんにも古物を合わせて頂きます。嬉しい緊張をしながら制作に向かいます。

(井山三希子)



出品予定

プレート、オーバル皿、丸皿、耐熱の器、碗、カップ、片口、蓋碗、茶杯 etc

井山三希子 | Mikiko Iyama

1987年「佐賀町エジプト・スペース」勤務後、瀬戸の窯業訓練校、製陶所を経て独立。愛媛、静岡、神奈川での暮らしを経て、東京に工房を構える。作家活動と生活を綴った著書『作ること暮らしこと』がある。<https://www.instagram.com/nikoyagi>

井山さんとの出会いは、2006年に「井山三希子×F/style展 セイカツノドウグ」で共に展示をさせて頂いたことがきっかけだった。久々に見たDMの写真には、今もなお作り続けられている片口やカップ、耐熱の器と、F/styleの日用品が棚やテーブルに並び、その様子は静かな日常のひとつコマのようで、率直な印象は双方とも17年前と変わらない空気が流れていた。互いが積み重ねてきているものに何か共通点があるのだろうか。再び展示を共にできる喜びを感じながら、井山さんのお仕事をもっと知りたいと思った。石膏型を作り、板状にして粘土を張り込んでいくタタラ作りという技法は、ある程度同じ形を量産することができるが、一点一点の表情が異なり、インダストリアルとクラフトの間の印象で、機能的ですっきりとした佇まいでありながら、手の跡を感じる。それは、技法によるものだけではなく、淡々と一連の工程を繰り返し、完成まで見届ける、井山さんの制作のリズムと哲学が宿っている。日々の積み重ねでしか得られない、身体的実感を手放さないモノづくり。ある時井山さんが、ご自身のことを「食器屋」だとおっしゃった。作家として名前では選ばれるのではなく、日常で使う鍋や箸と同じように選んでほしいと。その言葉が残っていて、常設のような企画展示を構想した。井山さんの器と、京都・Kitさんに雑貨や古物で展示協力いただきながら、F/styleのプロダクトも混ざり合う空間で、いつも台所や部屋の中に付んでいる道具のように、どれもが平等に暮らしというステージで、穏やかな日常を支えてくれる尊い一つ一つである。今回の展がそんな景色になったらと。

(F/style)

